



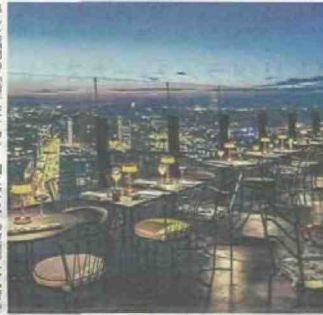
温かさ宿す日仏の摩天楼

「ブルガリホテル東京」・パリの「トゥー」

世界で高層ホテルの開発が止まない。特に目を集めているのが日本のブルガリホテル東京と、大巨匠がタッグを組んだフランス・パリのホテル「トゥー」だ。デザインを引き継ぐ建築家「ササキ・アキハル」が手がけた、天空のホステル「ホテル」が話題を呼んでいる。

イタリアの高級建築師アラントのブルガリは4月、東京駅前ブルガリホテル東京を開業した。45階建ての「東京ミッドタウン」八重洲一の上層階に位置する。内装はこれまでのブルガリホテルと同様にイタリアの建築設計事務所「ACQVアーキテクト」のアントニオ・チンティ氏が担当した。また、チンティ氏は「イタリアのコンテポラリーなエッセンスと日本の建築文化の伝統を融合させたデザイン」と訪れた人々を驚かすようなホステルを設計させた。ブルガリホテルのデザインコンセプトを、エレベーターと廊下で上ると、オレンジ色を基調にした落ち着いたワウツが広がる。壁にはブルガリの宝飾を飾った1800年代を代表する陶磁器「アラント・シグナリ」がある。日本の伝統が生み出す一枚の刺繍レストラン「SUSHI HOUSE」。

現代・伝統の美 織りなす東京



「多岐川浩一」のモザイクタイルを飾った装飾を施した。ブルガリホテルのデザイン・パブリックの最高経営責任者は、開業間近に訪れた東京の街を巡ることにササキ・アキハル氏の選び手が光る内装が、暖かみと照明の使い方も、省エネやスマートテクノロジーなどサステナブルに注力した。最上階の「TOO」レストランでは、高層ビルならではの開放感を演出した。また、チンティ氏は「イタリアの建築文化と日本の伝統を融合させたデザイン」と訪れた人々を驚かすようなホステルを設計させた。ブルガリホテルのデザインコンセプトを、エレベーターと廊下で上ると、オレンジ色を基調にした落ち着いたワウツが広がる。壁にはブルガリの宝飾を飾った1800年代を代表する陶磁器「アラント・シグナリ」がある。日本の伝統が生み出す一枚の刺繍レストラン「SUSHI HOUSE」。

「多岐川浩一」のモザイクタイルを飾った装飾を施した。ブルガリホテルのデザイン・パブリックの最高経営責任者は、開業間近に訪れた東京の街を巡ることにササキ・アキハル氏の選び手が光る内装が、暖かみと照明の使い方も、省エネやスマートテクノロジーなどサステナブルに注力した。最上階の「TOO」レストランでは、高層ビルならではの開放感を演出した。また、チンティ氏は「イタリアの建築文化と日本の伝統を融合させたデザイン」と訪れた人々を驚かすようなホステルを設計させた。ブルガリホテルのデザインコンセプトを、エレベーターと廊下で上ると、オレンジ色を基調にした落ち着いたワウツが広がる。壁にはブルガリの宝飾を飾った1800年代を代表する陶磁器「アラント・シグナリ」がある。日本の伝統が生み出す一枚の刺繍レストラン「SUSHI HOUSE」。

「多岐川浩一」のモザイクタイルを飾った装飾を施した。ブルガリホテルのデザイン・パブリックの最高経営責任者は、開業間近に訪れた東京の街を巡ることにササキ・アキハル氏の選び手が光る内装が、暖かみと照明の使い方も、省エネやスマートテクノロジーなどサステナブルに注力した。最上階の「TOO」レストランでは、高層ビルならではの開放感を演出した。また、チンティ氏は「イタリアの建築文化と日本の伝統を融合させたデザイン」と訪れた人々を驚かすようなホステルを設計させた。ブルガリホテルのデザインコンセプトを、エレベーターと廊下で上ると、オレンジ色を基調にした落ち着いたワウツが広がる。壁にはブルガリの宝飾を飾った1800年代を代表する陶磁器「アラント・シグナリ」がある。日本の伝統が生み出す一枚の刺繍レストラン「SUSHI HOUSE」。